通年性アレルギー性鼻炎患者における咳嗽と呼気NOの関連について

山田武千代，坂下　雅文，意元　義政，吉田加奈子，
斎藤　杏子，木戸口正典，藤枝　重治
福井大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

アレルギー性鼻炎では下気道の症状がなくても好酸球の浸潤が認められ呼気NOが高いことが多い。また，喘息，咳喘息，アトピー咳嗽，喉頭アレルギーを合併することもある。今回は，GE analytical instruments Sievers 280iでNO濃度を測定し，通年性アレルギー性鼻炎の咳嗽と呼気NO濃度，鼻腔NO濃度，JRQLQ，JESS（Japanese version of the Epworth Sleepiness Scale）について検討した。通年性アレルギー性鼻炎では8割に咳嗽が認められ，咳嗽が認められた群では，咳嗽なし群に比べ，鼻腔NO濃度，JESSスコア，総鼻症状スコアは有意に高かった。JRQLQでは，精神集中不良，思考力の低下，気分不快感, いらいら感, ゆううつ感などが有意に悪かった。呼気NOが100 ppb以上の症例では，100 ppb未満の症例に比べて，咳スコア，血清総IgE，ハウスダストスコア，睡眠障害スコアは有意に高かった。JRQLQでは，勉強・仕事・家事の支障，精神集中不良，思考力の低下，新聞や読書の支障，記憶力低下，外出の支障，人とつき合いの支障，睡眠障害，倦怠感，疲労感，気分不快感，いらいら感，ゆううつ感などが有意に悪かった。